資料番号	7

令和４年９月27日
課　名　土木建築局建設ＤＸ担当
担当者　課長　下隠
内　線　3861

インフラマネジメント基盤「ＤｏｂｏＸ」の利用状況等について

１　要旨・目的

公共土木施設等に関する情報の一元化・オープンデータ化を可能とするシステム基盤であるインフラマネジメント基盤（ＤｏｂｏＸ）運用開始後の利用状況等を報告する。

２　現状・背景

県民の安全安心・利便性の向上，新たなサービス付加価値の創出など広島デジフラ構想に掲げる目指す姿を実現するため，具体的な取組案の柱の一つであるインフラマネジメント基盤（ＤｏｂｏＸ）を構築し，６月 28 日から運用している。

３　概要

(1)　調査対象

県民，民間事業者等

(2)　調査期間

	内　容	調査期間
ア	サイト閲覧数及びデータダウンロード状況調査	６月 28 日～８月 28 日
イ	データ利活用に関するアンケート調査	９月２日～９月 12 日

(3)　調査結果

ア　サイト閲覧数及びデータダウンロード状況調査

ＤｏｂｏＸの運用開始後の利用状況として，３Ｄマップなどの可視化コンテンツの閲覧が約 3,700 回，オープンデータのダウンロードが約 10,700 回となっている。

イ　データ利活用に関するアンケート調査

オープンデータの具体的な利用方法を確認した結果，地域の防災活動や，民間企業が所有する設備の被災リスクの確認，大学での研究等での利用が確認できた。

データ種別	ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ数	具体的な利用方法
災害リスク情報 （浸水想定区域等）	8,259	・地域の防災活動での説明資料やマップの作成 ・管理設備の被災リスクの確認及び対策の検討
都市計画関連情報	1,606	・GIS に取り込みデータ分析業務等に活用
ボーリングデータ	399	・建設工事等にける調査計画立案
3次元点群データ	191	・3次元設計によるアクセス道路の計画等 ・災害リスク情報を可視化するための3D 地図の作成 ・土石流発生後の地形を確認するための基礎資料
その他 （施設基本情報等）	271	・施設の位置情報を GIS に取り込み業務に活用
合計	10,726	

(4)　課題分析

サイト閲覧数等から，ＤｏｂｏＸの利用が徐々に広まっており，アンケート調査からも公開データが，産学官と幅広い分野で活用され始めていることが確認できた。

一方で，ＤｏｂｏＸに搭載しているアイディアボックスに投稿された利用者の意見等から，次の課題があることが判明した。

（課　題）

・３次元点群データが県内の一部地域（太田川流域等の国管理エリア）で公開できないことや，河川水位情報等のデータが未公開であるなど，新たなサービス等の検討に活用できるデータが不足している。

・現行のオープンラインセンス※1では，特定のＧＩＳ（オープンストリートマップ※2）への取り込みに制限がかかるなど用途によっては使いにくい場合がある。

※１　現在，広島県では，国際的にも広く認知されている標準的なルールである「CC ライセンス（クリエイティブ・コモンズ・ライセンス）」を適用している。

※２　誰でも自由に地図を使えるようみんなでオープンデータの地理情報をつくるプロジェクト

(5)　今後の対応

県保有データの追加や，国や市町等とのデータ連携の拡大など，データの充実を図るとともに，利用者の用途に応じたオープンライセンスの追加や，オープンデータワークショップの開催など，オープンデータの活用を広める取組を推進し，「広島デジフラ構想」に掲げる目指す姿を実現する。

４　その他（関連情報等）

９月 26 日から砂防ダム，港湾施設等の情報を公開（https://hiroshima-dobox.jp/）した。